

ミラクシーラーEPO

特 長

用 途

荷 姿

危険情報と安全対策

標準施工仕様

性能試験成績表

ミラクシーラーEPOは、特殊エポキシ樹脂を結合材として用いた溶剤形2液反応硬化タイプの下塗材です。

1. 各種旧塗膜との密着性に優れています。
2. 浸透性、固着性が高く、下地の補強効果に優れています。
3. 水分や炭酸ガスの浸入を防ぎ、セメントモルタルやコンクリートなどの中性化を防ぎます。
4. 基材の通気性を損いにくく、通気性塗材の下塗りとして使用できます。

- ① 各種仕上塗材（高弾性塗材は除く）の下塗り
- ② 押出成形セメント板、GRC板・PC部材などの浸透・固着化
- ③ 改装工事における劣化下地の補強
- ④ スレート瓦、コロニアルなど薄型塗装瓦の表面強化

- ★ミラクシーラーEPO 主剤 10kg石油缶（4kg缶）
 ★ミラクシーラーEPO 硬化剤 5kg缶（2kg缶）（37~150m²/15kgセット、15~60m²/6kgセット）
 ★EHシンナー（希釈用） 16ℓ石油缶

製品の取り扱いには、それぞれの製品安全データシート（MSDS）に従ってください。特に、★印のついている製品は溶剤形のため、下記の点にご注意ください。

1. 引火性の液体のため、火気厳禁です。
2. 有機溶剤中毒のおそれがあるため、換気に注意し、防毒マスクまたは送気マスクを使用するなどの安全対策を行ってください。
3. 施工においては、溶剤成分が室内に流入しないように十分注意してください。その他詳しくは、「危険情報と安全対策」をよくお読みください。

(20℃、65%RH)

材 料	調合 (重量比)	所要量 ^{※1} (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (hr)		備 考
				工程内	工程間	
ミラクシーラーEPO 主剤	100	0.10~ 0.40	1~2	3以上	4~48	ローラー、刷毛 エアレススプレーガン 吐出量：600~1000ml/分 ノズル径：25~30cm
ミラクシーラーEPO 硬化剤	50					

※1. 下地の種類によって所要量、塗付け量が下記のように変わります。吸い込みの著しい場合などは、2度塗りしてください。

※2. なお、モニエル瓦の場合、劣化状況にもよりますが、濡れ色になるまで塗装し、下地をしっかりと補強してください。

部 位	下地の種類	標準所要量 (kg/m ²)	標準塗付け量 (kg/m ²)	塗回数
一般建築壁面	押出成形セメント板、GRC板、PC板	0.10~0.13	0.08~0.10	1
	コンクリート、セメントモルタル、フレキシブルボード	0.15~0.20	0.13~0.16	1~2
一般建築屋根	薄型塗装瓦（コロニアル、カラーベストなど）、スレート屋根	0.15~0.25	0.13~0.20	1~2
	モニエル瓦	0.20~0.40	0.18~0.32	2

※3. 調合は所定の割合を厳守してください。また、混合後の材料は、缶に表示の可使用時間（5時間）以内に使い切ってください。

※4. 主剤と硬化剤は混合不良を生じるおそれがあるため、電動ミキサーを使って2分以上攪拌してください。

※5. 希釈しますと付着力や性能低下などの原因となりますので、希釈は絶対にしないでください。

※6. 改装工事に使用の場合は、溶剤などの影響により旧塗膜を侵し、膨れ・ちぢみなどの異状が発生することがあります。試し塗りにより確認の上、本施工に入ってください。

JASS 18 M-201 反応形合成樹脂ワニス（2液形エポキシ樹脂ワニス）による物性試験

試験項目	結 果	品 質
透 明 性	合 格	透明であるものとする。
ポットライフ(可使用時間)	合 格	3時間で使用するものとする。
塗 装 作 業 性	合 格	はけ塗りで塗装作業に支障があってはならない。
乾 燥 時 間	合 格	16時間以内
塗 膜 の 外 観	合 格	塗膜の外観が正常であるものとする。
耐 水 性	合 格	水に浸しても異常があってはならない。
耐アルカリ性	合 格	アルカリに浸しても異常があってはならない。
上塗り適合性	合 格	上塗りに支障があってはならない。
加 熱 残 分	合 格	20%以上

注意点

製品の取り扱い、それぞれの製品安全データシート（MSDS）に従ってください。
本パンフレットでは、一般的な施工仕様を記載しています。下地の種類及び状況、用途などにより仕様が変わることがあります。
詳しくは、最寄りの各営業所にお問い合わせいただくか、それぞれの施工要領書を別途ご参照ください。

- ALCパネル、多孔質下地、粗面、その他、下地に問題がある場合には、カケンファイラー（粉体/20kg袋、混和液/10kg石油缶）、またはミラクフアンドKC-1000（粉体/20kg袋、混和液/5kgポリ容器）などで下地調整を行ってください。なお、改装工事には、ミラクフアンド各種をご使用ください。
- 下地がコンクリートの場合には、付着物などを除去し、下地をよく乾燥させ、含水率10%以下・pH10以下としてください。
- 吸い込みが大きい下地、部分的に下地調整を行った面が他の面と比べて著しい吸い込み差を生じる下地、改装下地、並びに下地がけい酸カルシウム板、せっこうボード、スレート板、バルブセメント板などの場合には、適切な下塗材の選択が必要です。
- 詳しくは、施工要領書をご参照ください。
- 各材料の希釈には、指定の希釈剤をご使用ください。希釈の方法が適切でない粘性に異状をきたし、塗装時にたれ・透け・ミスト発生などの問題を生じる場合があります。吹付時の空気圧の調整とともに十分ご注意ください。
- ニ液反応硬化タイプの材料は、主剤と硬化剤を指定の比率で調合し、電動ミキサーで攪拌混合してください。特に小分けでご使用の場合は、計量器にて計量を行ってください。混合後の材料は、缶に表示の可使用時間以内に使い切ってください。また、可使用時間は温度・希釈などの条件によって変わりますので、混合後はなるべく早く使い切ってください。
- 既調合タイプの材料を希釈したり、他の材料と混合したりすると、性能低下につながりますので、絶対に避けてください。
- 各標準施工仕様に記載の所要量及び間隔時間を守って施工してください。
- ローラー塗りはW-2（中毛）ローラーをご使用ください。また、ローラーは一方だけでなく、上下左右にむらなく運ぶことが、良い施工方法です。
- 吹付用のコンプレッサーは、2馬力以上のものをご使用ください。
- 改装工事に溶剤形の材料をご使用の場合、溶剤などの影響により旧塗膜を侵し、膨れ・ちぢみなどの異状が発生することがあります。試し塗りにより確認の上、本施工に入ってください。
- シーリング材の上へ施工する場合、シーリング材の種類や材齢により塗膜が密着しないことがあります。詳しくは、最寄りの各営業所にお問い合わせください。
- 冬期または多湿な場合には、乾燥が遅くなります。通風をよくし、十分に乾燥養生を行ってください。強風時または降雨・降雪のおそれがある場合及び温度5℃以下、湿度85%以上の時は、原則的に施工を避けてください。施工が要求される場合は、採暖及び採暖のための養生により、雰囲気温度・被塗面温度を5℃以上にしてください。
- 著しく結露が生じるような場所では、塗膜の膨れ、はく離、白化、しみの発生につながる場合がありますので、使用を避けてください。
- 材料は規定の範囲内の希釈を厳守し、電動ミキサーなどを用いて内容物が均一になるように十分に攪拌してください。
- 塗り重ね時間は環境（温度、湿度、換気、風通しやすさ）や膜厚によってかわります。
- 低温又は高湿度時には、乾燥が遅くなりますのでご注意ください。
- 陶磁器タイル洗浄用の酸が塗装面に付着すると、変色や溶解などの異常を生じることがありますので、これを防止するため、予め塗装面の養生を行ってください。
- ゴムやプラスチック等、可塑性を含む部位に直接触れると軟化や剥離を生じることがありますので、そのような場所への塗装は避けてください。
- かび、藻が付着している場合は、「SKKかび除去剤#5（塩素系）」にて拭き取ってください。
- ヤニ・アクが付着している場合は、中性洗剤などで拭き取った後、あらかじめSK水性ヤニ止めシーラー（15kg石油缶）を塗付してください。
- 間隙が広いなど、大きな動きが予想されるシーリング打設部への塗装は、塗膜がひび割れる可能性がありますので、なるべく避けてください。
- 溶剤形、弱溶剤形の下塗材は、ゴムやプラスチック等、可塑性を含む部位に直接触れると軟化や剥離を生じることがありますので、そのような場所への塗装は避けてください。
- 荷姿に記載の標準塗坪は一般的なものであり、下地の状態や環境などによる所要量の増減に応じて変わることがあります。ご了承ください。

危険情報と安全対策

すべての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないでください。

各種共通

- [応 急 処 置] 蒸気を吸入した場合は、空気の清浄な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させてください。その後、医師の診断を受けてください。
 誤飲した場合は、直ちに医師の診断を受け、無理に吐かせないでください。
 眼に入った場合は、清浄な水で十分洗い流し、痛みが残る場合は医師の診断を受けてください。
 皮膚に付着した場合は、付着した衣服等は直ちに脱ぎ、清浄な水で皮膚を洗ってください。炎症や刺激がある場合は医師の診断を受けてください。
 漏出した場合は、漏出物を速やかに回収してください。
- [廃 棄] 廃材、容器、養生材、ウエス等は、自分で破棄・焼却せず、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処分を委託してください。
 容器に中身を残したまま廃棄したり、火気を当てたりしないでください。
 有害物質を含みますので、排水路・下水・河川への排出及び地下浸透をしないでください。
- [保 管 及 び 取 扱 い] 容器を密封し、凍結・直射日光を避け、5~40℃の乾燥した換気の良い場所、及び部外者や子供が出入りできない場所に一定の管理の出来る場所を定め、施錠して保管してください。
 缶の取手は手さげ専用です。ロープやフックで吊り下げると外れることがあります。危険です。（製品の種類によって異なる注意事項は、別途、種類別に記載してありますので、参照してください。）
- [安 全 衛 生] 製品の種類によって異なります。別途、種類別に記載してありますので、参照してください。また、MSDS（製品安全データシート）もご参照ください。
 取り扱い後は、洗顔、手洗い及びうがいを十分に行ってください。

溶剤形塗料

- 溶剤形塗料は特に下記の点にご注意ください。
 1. 引火性可燃物ですので、火気厳禁です。
 2. 有機溶剤中毒や皮膚障害を起こすおそれがあるため、取り扱い時は保護具を着用してください。
 3. 業務用「塗料」ですので、本来の用途以外には使用しないでください。
- [保 管 及 び 取 扱 い] 保管場所及び取り扱い場所とその周辺は、塗装中・乾燥中ともに熱/火花/裸火/高温体のような着火源を遠ざけ火気厳禁としてください。特に乾燥中は蒸発の面積が広がるため、短時間に多量の引火性の高い蒸気が発生しますので、注意してください。
 合成樹脂などの電気絶縁性の床での保管や取り扱いをしないでください。また、導電靴や帯電防止の衣服を着用してください。
 ご使用の場合、使用機器（電気機器/換気装置/照明機器/工具等）は防爆型及び導電型のもを使用し、アースを取ってください。
 消火には粉末、二酸化炭素、泡消火器または水を噴霧してください。棒状の水を直射すると飛散して危険です。

[安全衛生]

- ご使用前には、製品容器に記載の注意事項をよくお読みください。特に、荷姿欄に★印のついている製品は溶剤形で引火性可燃物の為、火気厳禁です。
- 揮発性の溶剤を含むため、皮膚に触れたり蒸気を吸入すると、皮膚障害や中毒を起こすおそれがありますから取り扱いには以下の注意事項を守ってください。
 - ① 取り扱い場所には局所排気装置を設けてください。
 - ② 容器から出し入れする時は、こぼれないようにしてください。
 - ③ 取り扱い中は皮膚に触れたり、蒸気やミストの吸入を避けてください。必要に応じ、防塵マスク、保護メガネ、不浸透性の保護手袋、前掛け等を着用し、また、顔・手・腕には保護クリームを塗って直接皮膚に触れないようにしてください。
 - ④ 作業衣などに付着した場合は、その汚れをよく落としてください。
- 施工においては、溶剤成分が室内に流入しないように十分注意してください。

硬化剤

- 硬化剤は、特に下記の点にご注意ください。
1. 引火性可燃物ですので、火気厳禁です。
 2. 有機溶剤中毒や皮膚障害を起こすおそれがあるため、取り扱い時は保護具を着用してください。
 3. 業務用「塗料」ですので、本来の用途以外には使用しないでください。

[保管及び取り扱い]

- 保管場所及び取り扱い場所とその周辺は、塗装中・乾燥中ともに熱／火花／裸火／高温体のような着火源を遠ざけ火気厳禁としてください。特に乾燥中は蒸発の面積が広がるため、短時間に多量の引火性の高い蒸気が発生しますので、注意してください。
- 合成樹脂などの電気絶縁性の床での保管や取り扱いをしないでください。また、導電靴や帯電防止の衣服を着用してください。
- ご使用の場合、使用機器（電気機器／換気装置／照明機器／工具等）は防爆型及び導電型のものを使用し、アースを取ってください。

[安全衛生]

- 消火には粉末、二酸化炭素、泡消火器または水を噴霧してください。棒状の水を直射すると飛散して危険です。
- ご使用前には、製品容器に記載の注意事項をよくお読みください。特に、荷姿欄に★印のついている製品は溶剤形で引火性可燃物の為、火気厳禁です。
- 揮発性の溶剤を含むため、皮膚に触れたり蒸気を吸入すると、皮膚障害や中毒を起こすおそれがありますから取り扱いには以下の注意事項を守ってください。
 - ① 取り扱い場所には局所排気装置を設けてください。
 - ② 容器から出し入れする時は、こぼれないようにしてください。
 - ③ 取り扱い中は皮膚に触れたり、蒸気ミストの吸入を避けてください。必要に応じ、防毒マスクまたは送気マスク、保護メガネ、不浸透性の保護手袋、前掛け等を着用し、また、顔・手・腕には保護クリームを塗って直接皮膚に触れないようにしてください。
 - ④ 皮膚に付着した場合は、速やかに大量の水で洗ってください。また、大量の蒸気を吸入した場合は、速やかに医師の診断を受けてください。
 - ⑤ 作業衣などに付着した場合は、その汚れをよく落としてください。
 - ⑥ 液がこぼれた場合は、中和剤を散布した後で処理してください。
- 施工においては、溶剤成分が室内に流入しないように十分注意してください。

希釈用溶剤

- 希釈用溶剤は、特に下記の点にご注意ください。
1. 引火性可燃物ですので、火気厳禁です。
 2. 有機溶剤中毒や皮膚障害を起こすおそれがあるため、取り扱い時は保護具を着用してください。
 3. 業務用「塗料」ですので、本来の用途以外には使用しないでください。

[保管及び取り扱い]

- 保管場所及び取り扱い場所とその周辺は、塗装中・乾燥中ともに熱／火花／裸火／高温体のような着火源を遠ざけ火気厳禁としてください。特に乾燥中は蒸発の面積が広がるため、短時間に多量の引火性の高い蒸気が発生しますので、注意してください。
- 合成樹脂などの電気絶縁性の床での保管や取り扱いをしないでください。また、導電靴や帯電防止の衣服を着用してください。
- ご使用の場合、使用機器（電気機器／換気装置／照明機器／工具等）は防爆型及び導電型のものを使用し、アースを取ってください。

[安全衛生]

- 消火には粉末、二酸化炭素、泡消火器または水を噴霧してください。棒状の水を直射すると飛散して危険です。
- ご使用前には、製品容器に記載の注意事項をよくお読みください。特に、荷姿欄に★印のついている製品は溶剤形で引火性可燃物の為、火気厳禁です。
- 揮発性の溶剤を含むため、皮膚に触れたり蒸気を吸入すると、皮膚障害や中毒を起こすおそれがありますから取り扱いには以下の注意事項を守ってください。
 - ① 取り扱い場所には局所排気装置を設けてください。
 - ② 取り扱い中は皮膚に触れたり、蒸気ミストの吸入を避けてください。必要に応じ、防毒マスクまたは送気マスク、保護メガネ、不浸透性の保護手袋、前掛け等を着用し、また、顔・手・腕には保護クリームを塗って直接皮膚に触れないようにしてください。
 - ③ 容器から出し入れする時は、こぼれないようにしてください。
- 施工においては、溶剤成分が室内に流入しないように十分注意してください。

水性塗料

[安全衛生]

- ご使用前には、製品容器に記載の注意事項をよくお読みください。
- 水性塗料（荷姿に★印のついている製品）の取り扱いには以下の注意事項を守ってください。
 - ① 取り扱い場所は換気をしてください。
 - ② 取り扱い中は皮膚に触れたり、蒸気ミストの吸入を避けてください。必要に応じ、防毒マスクまたは送気マスク、保護メガネ、不浸透性の保護手袋、前掛け等を着用し、また、顔・手・腕には保護クリームを塗って直接皮膚に触れないようにしてください。